

問1 5世紀、ヤマト王権の「倭の五王」は中国の南朝（宋など）に繰り返し使者を送りました。中国側の歴史書『宋書』倭国伝に記されている、彼らが朝貢を通じて中国皇帝に認めてもらおうとした地位や権限とはどのようなものですか。（2025年 沖縄公立入試 類似）

1. 日本国内の支配権に加え、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権
2. 遣隋使の派遣を永続的に免除される特権
3. 明との間で勘合を用いた貿易を行うための独占的な権利
4. 鎖国体制を維持するために、他国との国交を断絶する公式な許可

問2 古墳時代、朝鮮半島や中国から日本列島へ移り住んだ渡来人によって伝えられたもので、日本における記録や公文書作成の基礎となった文字を次の中から選びなさい。（2019年 岡山公立入試 類似）

1. 漢字
2. ひらがな
3. カタカナ
4. ローマ字

問3 古代の日本において、ヤマト政権が朝鮮半島諸国との外交や軍事活動を通じて、他勢力に対し優位に立つために最も獲得を重視した資源はどれか。（2020年 鳥取公立入試 類似）

1. 武器や農具の材料となる鉄
2. 外交の儀礼に用いられる仏教の経典
3. 権威を象徴するための金印や銅鏡
4. 貨幣の原料となる金や銀

問4 古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。（2024年 鳥取公立入試 類似）

1. 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。
2. 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。
3. 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。
4. 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。

問5 5世紀ごろ、現在の大阪府や奈良県を中心とした勢力であるヤマト王権が、九州から関東地方に至る広い範囲に影響力を及ぼしていたことが、各地の出土品から判明しています。埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、当時のヤマト王権の首長を指すどのような称号が刻まれていましたか。（2015年 岡山公立入試 類似）

1. 大王
2. 執権
3. 天皇
4. 將軍

問6 巨大な前方後円墳が各地で盛んに造られていた古墳時代の5世紀ごろ、ヤマト王権の王たちは、自らの地位を国際的に認めさせるために中国の王朝へ使節を送りました。このとき、倭の五王が朝鮮半島での軍事的な指揮権などを認めてもらうために交渉を行った相手は、当時の中国のどの勢力ですか。（2024年 栃木公立入試 類似）

1. 中国の南朝
2. 唐
3. 隋
4. 漢

問7 4世紀から5世紀にかけて、近畿地方を中心に誕生した「前方が方形で後方が円形」という特徴を持つ巨大な墳墓が、九州から東北地方まで広く分布するようになった歴史的背景について述べたものとして、最も適切な説明を選択してください。（2019年 富山県公立入試 類似）

1. ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため
2. 仏教の伝来によって、全国の豪族が共通の形式で墓を作る宗教的義務を負ったため
3. 大陸から渡来した人々が、自分たちの故郷で一般的だった墓の形を全国に広めたため
4. 各地の豪族が、ヤマト王権に対抗するために独自に巨大な墳墓を築くことを競い合ったため

問8 紀元1世紀から17世紀までの東アジアにおける日本の対外関係をまとめた年表において、最も古い時期に記される「後漢への朝貢」に関連する問いです。当時の倭の奴国の王が中国の皇帝から授かったとされる、現在の福岡県志賀島で出土した品物はどれですか。（2025年 沖縄公立入試 類似）

1. 「漢委奴国王」と刻まれた金印
2. 「親魏倭王」と刻まれた金印
3. 「日出処天子」と記された国書
4. 勘合貿易で用いられた割符

問9 倭の五王の一人である「武」は、中国の南朝の皇帝に上表文（手紙）を送り、自らの祖先がいかにして国土を広げたかを伝えました。この「武」は、日本の歴史上のどの人物であると比定（推定）されていますか。（2024年 大阪公立入試 類似）

1. ワカタケル大王（雄略天皇）
2. 聖徳太子（厩戸王）
3. 中大兄皇子（天智天皇）
4. 卑弥呼

答え合わせ・解説

問1	答え 1 日本国内の支配権に加え、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権	5世紀になると、ヤマト王権の王たちは「倭の五王（讚・珍・濟・興・武）」として中国の南朝に朝貢しました。彼らの主な目的は、日本国内の統一的な支配権を国際的に認めさせることだけでなく、当時進出を図っていた朝鮮半島南部における外交・軍事的な優位性を確保し、その立場を中国皇帝に正当化してもらうことにありました。
問2	答え 1 漢字	古墳時代に大陸の進んだ技術や文化を持った人々（渡来人）が日本列島へ移住した際、儒教や仏教とともに伝えられたのが漢字です。これにより、それまで文字を持たなかった日本において、出来事の記録や政治的な文書の作成が可能となりました。ひらがなやカタカナは、後にこの漢字を崩したり、一部を取ったりすることで日本独自の文字として発展したものです。
問3	答え 1 武器や農具の材料となる鉄	当時の日本列島では鉄の原料を十分に自給できず、朝鮮半島からの供給に依存していました。鉄は強力な武器を作るだけでなく、開墾や土木作業に不可欠な農具の材料でもあったため、鉄を安定確保することは、軍事力と農業生産力の両面において政権の基盤を固めるために極めて重要でした。
問4	答え 1 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。	4世紀から5世紀にかけて、大陸や朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新しい技術を日本列島に伝えました。彼らは金属器の加工や織物の技術とともに、密閉された穴窯で焼成する須恵器の技術をもたらしました。この技術により、従来の土器よりも高い強度を持つ器の生産が可能となりました。他の選択肢は縄文時代、弥生時代、または飛鳥時代以降の出来事です。
問5	答え 1 大王	5世紀後半のヤマト王権（大和朝廷）の首長は「大王（おおきみ）」と呼ばれていました。埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀には、「ワカタケル大王」などの銘文が刻まれており、近畿地方を中心とするヤマト王権の支配が、既に関東から九州まで及んでいたことを示す重要な歴史的証拠となっています。
問6	答え 1 中国の南朝	古墳時代の5世紀、ヤマト王権（倭国）の「讚・珍・濟・興・武」という5人の王（倭の五王）は、当時の中国で南側に成立していた「南朝」の諸王朝（宋など）へ使節を送りました。これは、中国の皇帝から称号を得ることで、国内での支配権を固めるとともに、朝鮮半島における政治的・軍事的な立場を他国に対して有利に進める狙いがありました。
問7	答え 1 ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため	同一形式の巨大な墳墓が広範囲に分布している事実は、中央のヤマト王権と地方の豪族との間に、身分秩序を伴う政治的な結びつきがあったことを示しています。ヤマト王権が各地の豪族を自らの支配体制に組み込んでいく過程で、王権の権威の象徴であるこの形式の古墳が各地で築かれるようになりました。
問8	答え 1 「漢委奴国王」と刻まれた金印	紀元1世紀（西暦57年）、倭の奴国の王は中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授けられました。これは、当時の日本の小国が中国の皇帝に朝貢することで、自らの支配の正当性を認めさせようとした初期の事例です。この金印には「漢委奴国王」と刻まれており、江戸時代に志賀島で発見されました。
問9	答え 1 ワカタケル大王（雄略天皇）	倭の五王の最後の一人である「武」は、埼玉県で見つかった稲荷山古墳の鉄剣銘などに記された「獲加多支鹵大王（ワカタケル大王）」、すなわち雄略天皇であると考えられています。この時期、ヤマト政権の支配範囲が関東から九州にまで及んでいたことが、金石文と中国の歴史書の両方の記述から裏付けられています。